

鋼橋の施工不具合と疲労損傷

鋼橋には製作時、施工時に様々な欠陥や不具合が残され、それが疲労を代表する経年劣化の原因となります。そのような欠陥の存在は事故が起きるまで検出することは難しく、事故後に類似の箇所について点検することになります。疲労設計が正式に道路橋に取り入れられた2012年であり、それ以前に設計された橋梁は疲労に対する安全性は照査されていません。これは既存不適格ということになります。

三木らは内外の橋梁で生じた「施工不具合を原因とした事故」についての情報を収集分析して、その点検、原因の調査、補修・補強対策などを整理しました。

土木学会論文集、No.703/I-59, 177-183, 2002-1

土木学会論文集、No.745/I-65, 105-119, 2003-10

土木学会論文集、Vol.63, No.3, 518-532, 2007-7

土木学会論文集、Vol.65, No.9, 618-629, 2009-7

